

C-46 幼児服の「あき」に関する一考察 —留め具の留め外しについて—
昭和女大家政 ○中曾根恵美子 樋口照子

目的 幼児は、身体のプロポーション・上肢の運動機能・心の働きなど、成人とは異なるので、幼児服における「あき」の位置・大きさ・留め具など、幼児の着脱の実態に即し、成人とは違った立場から設計されることがのぞましい。昭和51年の本学会総会において、留め具の市販品調査・留め外し実験を行い検討を試みたが、今回は、1年後の追跡調査を行い前回と比較し、適当と思われる幼児服の留め具について検討したので報告する。

方法 ①幼児の留め具の留め外し実験 対象は、昭和51年被験者3・4・5才男女園児計60名の中から、1年後の4・5才男女園児計30名とし、前回と同条件で、上衣前あきにおける留め具（ボタン・スナップ）の留め外しに要する時間の測定・動作の観察を行った。②調査 幼児の「あき」に関し、3・4・5才園児の父兄100名にアンケートによる調査を行った。

結果 ①ボタン・スナップの留めに要した時間は、ボタン5こで34秒・スナップ5こで39秒速くなった。スナップは、幼児にとって、留めにくいが外しやすい傾向がみられた。②各ボタン間・各スナップ間の留め外しに要する時間の差はなくなったが、一番上のスナップについては、個人差がみられた。男女間の差はなかった。③幼児の服の着脱の状態は、下着・普段着は約90%以上が自分で行うが、通園着・外出着は大人が手伝う傾向である。④2才から2才6カ月の幼児は、着衣に興味を示しており、3才から3才6カ月になると自分で着る事ができるようになる。⑤3才はボタンに、4・5才はファスナーに興味を示し、3・4・5才とも、スナップは好まない傾向がみられた。